

講義科目名称： 教育原理

授業コード：

英文科目名称： Principles of Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
系 洲 理子			
授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEB3111102		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教育についての基礎的な理解</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：教育の理念や意義、目的、制度などの基本的概念について学び、それらが教育の歴史や思想を通して、どのように現れてきたかについて理解することができる。また、教育及び学校教育がどのように捉えられ、変遷してきたかについて、乳幼児期の教育の特性や学校教育との相違、生涯教育について理解することができる。 技能の観点：教育について基礎的な理論を学習し、現代の教育の特徴と課題について自らの考えを述べることができる。 態度の観点：教育について自ら考えることができる。また、他者との討論をとおして、協働して教育を実践するための態度を獲得できる。</p>
授業の概要	<p>教育が社会の中でどのように誕生して営まれてきたのか、教育の歴史や思想の変遷を通して教育の意義や目的、教育法規、教育制度など実践に必要な基礎理論について理解する。また、乳幼児期の教育の特性や学校教育との相違、生涯教育についても理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要及び評価基準の説明、「教育」とは何か? ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 授業の始めに講義概要及び評価基準について説明する。 社会の中で営まれている「教育」とは何か、自ら受けてきた学校教育をとおして改めて考える。 【事前学習】授業前にテキスト第1章 (pp. 1-7) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第2回 教育と児童福祉 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育と児童福祉の関連について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章 (pp. 7-9) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第3回 子どもの教育の今日的課題 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 社会の中で営まれている「教育」と何か、その意義と目的について学ぶ。また、子どもの発達の特性をふまえた教育の在り方、特に児童福祉と教育の関係について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第2章 (pp. 10-20) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第4回 家庭教育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 家庭で行われる教育とは何か、子どもの発達に必要な環境とその要因、発達の基本的概念、愛着の形成について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第3章 (pp. 21-32) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第5回 学校教育①：学校教育の機能 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育の中心となる「学校教育」とは何か、その機能について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章 (pp. 33-36) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第6回 学校教育②：学校教育の法制度 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育の中心となる「学校教育」とは何か、その機能について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章 (pp. 37-49) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第7回 カリキュラム ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育実践の基礎理論となるカリキュラムについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第6章 (pp. 63-75) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第8回 子どもの教育の歴史と現在①：教育の歴史と教育思想 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育の歴史と教育思想、子ども観、教育観についての変遷と現状について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 76-91) を読み、分からない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第9回 子どもの教育の歴史と現在②：子ども観と教育観 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用</p>

	<p>教育の歴史と教育思想、子ども観、教育観についての変遷と現状について理解する。 【事前学習】 授業前にテキスト第7章 (pp. 76-91) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】 授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第10回 諸外国の教育の歴史と教育思想 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 諸外国で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解する。 【事前学習】 授業前にテキスト第8章 (pp. 92-108) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】 授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第11回 日本の教育の歴史と教育思想 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 日本で教育がどのように発生し、営まれてきたかについて、教育の歴史と代表的な思想を理解する。 【事前学習】 授業前にテキスト第9章 (pp. 109-125) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】 授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第12回 教育と評価 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育評価と教育経営について理解する。 【事前学習】 授業前にテキスト第11章 (pp. 141-151) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】 授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第13回 幼児教育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 就学前の幼児教育・保育の目的・方法と小学校以降の教育の違いを理解する。 【事前学習】 授業前に「幼稚園教育要領」第1章及び「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」第1章、「保育所保育指針」第1章を読むこと (2時間) 【事後学習】 授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第14回 子どもと教育専門職 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 子どもを教育する教育専門職について理解する。 【事前学習】 授業前にテキスト第12章 (pp. 152-162) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】 授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第15回 教育の現状と課題 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 現代社会の教育及び保育の現状と課題について理解する。 【事前学習】 授業前に配付する資料を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】 授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間)</p> <p>第16回 定期試験 ※遠隔で試験を実施する場合は、詳細について別途通知する。</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	北野幸子編著 『シードブック 改訂 子どもの教育原理』 建帛社 2018年 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年 厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年
参考書	ミネルヴァ書房編集部 [編] 2021年 『最新保育資料集2021』 ミネルヴァ書房 その他、必要な資料は適宜配布する。
評価方法	試験50%、レポート20%、課題20%、討議10%で総合的に評価する。 なお、受講態度が著しく不良の場合は減点する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 <input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を迫及する。 <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 <input type="checkbox"/> 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 <input type="checkbox"/> 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	講義形式の授業だが、双方向型の講義を重視し、できるだけ発言の機会を設ける。 新聞やニュースを閲覧して、子どもや教育を取り巻く時事問題に関心を持つこと。 ※課題の提出期限を厳守すること。
オフィスアワー	糸洲：毎週*曜日*限目 糸洲研究室（西研3-8）
課題に対するフィードバック方法	課題及びレポートは、評価後に返却する。

講義科目名称： 保育者論

授業コード：

英文科目名称： Nursery Teachers

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
糸洲 理子・平中 尚子			
授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEB3211131		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 教職・保育職の意義と役割の理解</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：現代社会における教職の意義や教員の役割・資質能力、職務内容等について理解することができる。特に乳幼児期の教育・保育に関わる幼稚園教諭や保育士になるために、幼稚園教諭・保育士の役割と倫理、制度的位置づけ、職務内容について学び、幼稚園教諭・保育士の専門性について考察し、理解することができる。 技能の観点：教職・保育職の意義について理解し、役割、資質・能力等について自らの考えを述べるができる。 態度の観点：教職・保育職につく者として、自己について客観的に振り返ることができる。また、他者との討論をとおして、協働して保育を実践するための態度を獲得できる。</p>
授業の概要	幼稚園教諭・保育士の役割や倫理、制度的位置づけ、職務内容（研修、服務、身分保障等）について理解し、自らの幼稚園教諭・保育士像を明確にする。また、幼稚園教諭・保育士の資質能力や専門性について理解し、幼稚園教諭・保育士の協働、関係機関との連携の在り方、現代の保育問題についても理解を深める。なお、クラス担当者それぞれの保育所保育士、幼稚園教諭としての実務経験を活かし、保育者の意義や役割、資質能力、職務内容等について、具体的な事例をふまえて講義する。
授業計画	<p>第1回 講義概要及び評価基準の説明。「幼稚園教諭・保育士になる」ということ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 授業始めに講義概要及び評価基準について説明する。 幼稚園教諭や保育士になるとは、どういうことか、自らの保育歴をふまえて考える。 【事前学習】初回講義前に、保育者になりたい理由を考えておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第2回 保育所保育士の仕事と役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 保育所保育士の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト序章（pp.13-22）、第1章（pp.23-25,29-33）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第3回 幼稚園教諭の仕事と役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園教諭の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章（pp.25-25）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第4回 保育教諭の仕事と役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 保育教諭の仕事と役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第1章（pp.33-41）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第5回 教育・保育に必要な子ども理解 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育・保育を行う上で、子どもをどのように理解するかについて学ぶ。 【事前学習】授業前にテキスト第2章（pp.42-61）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第6回 幼稚園教諭・保育士に求められる資質・能力 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園教諭や保育士に求められる資質と能力について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第3章（pp.62-77）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第7回 職場で学び合う専門家 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育・保育を行う者として、職場で上司や同僚とどのように学び合い、自己を高めるかについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp.78-93）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第8回 特別支援教育・保育 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 特別な支援を要する子どもの教育及び保育について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第5章（pp.94-100）を読み、わからない用語は確認しておくこと（2時間） 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること（2時間）</p> <p>第9回 子育て支援と幼稚園教諭・保育士の役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 子育てする保護者を支援するために必要な、幼稚園教諭や保育士の役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第5章（pp.101-113）を読み、わからない用語は確認しておくこと</p>

	<p>(2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) 現代社会の保育問題と幼稚園教諭・保育士の役割 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 現代社会を取り巻く様々な保育問題について、幼稚園教諭や保育士が果たす役割について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第6章 (pp. 114-127) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) 幼稚園教諭・保育士の職務：サービス、研修、身分保障 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園教諭や保育士のサービスや研修、身分保障について学び、その職務を理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 128-134) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) 幼稚園教諭・保育士に求められる倫理 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 教育・保育を行う際に、幼稚園教諭や保育士に求められる倫理について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 134-137) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) 幼稚園教諭・保育士の権利 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園教諭や保育士の権利について理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp. 137-145) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) 専門職間及び関係機関との連携 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 園の内外の専門職や関係機関との連携について理解する。 【事前学習】授業前に配付する資料を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) 幼稚園教諭・保育士の専門性とライフコース ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用 幼稚園教諭や保育士の専門性について理解する。また、保育者のライフコースについて理解する。 【事前学習】授業前にテキスト第10章 (pp. 175-198) を読み、わからない用語は確認しておくこと (2時間) 【事後学習】授業で学習した箇所の要点を整理すること (2時間) 第16回 定期試験 ※遠隔で試験を実施する場合は、詳細について別途通知する。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>編集代表 秋田喜代美 編集 西山薫他 『新時代の保育双書 今に生きる保育者論 第4版』 みらい 2019年 文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 厚生労働省 『保育所保育指針』 フレーベル館 2017年 厚生労働省 『保育所保育指針解説』 フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 2018年</p>
参考書	<p>ミネルヴァ書房編集部[編] 『最新保育資料集2021』 ミネルヴァ書房 2021年 その他、必要な資料は適宜配布する。</p>
評価方法	<p>試験60%、レポート20%、課題10%、討議10%で総合的に評価する。 なお、受講態度が著しく不良の場合は減点する。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【○】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>講義形式の授業だが、できるだけ発言の機会を設ける。 課題の提出は期限を厳守すること。</p>
オフィスアワー	<p>糸洲：毎週水曜日2限目 糸洲研究室（西研3-8） ※E-mail：a.itosu@ocjc.ac.jp 平中：毎週火曜日4限目 平中研究室（西研2-8） ※E-mail：h-shoko@ocjc.ac.jp</p> <p>※遠隔授業期間中は、メール、オンライン（Microsoft Teams）、必要に応じて電話で面談する。 ※面談に関する連絡は、大学メールで行う。</p>

課題に対する フィードバック方 法	課題及びレポートは、評価後に返却する。
-------------------------	---------------------

講義科目名称： 教育社会学

授業コード：

英文科目名称： Sociology of Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2年次	2単位 (2-0)	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
長谷川 裕			
授業形態：講義 (遠隔授業の可能性あり)	ナンバリング：EEM3232181		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	学校における教育実践と、その背景にある学校制度や社会全体のあり方との関係について、社会学的視点から把握できるようになることが、授業のテーマであり到達目標です。		
授業の概要	<p>学校教師が執筆した「教育実践記録」をいくつか取り上げ、その背景にある学校制度や社会全体のあり方をも把握しつつ、それらと関連させながら、記録に描かれている実践の意味を読み解いていきます。</p> <p>おおよそ次の「授業計画」欄に記された内容に触れていきますが、授業の状況を見ながら、より適切な内容・流れに変更します。</p> <p>対面授業・遠隔授業いずれの場合も、各回の講義資料をTeamsにて配信します。レポートは、Teamsにて提出してもらいます。</p>		
授業計画	第1回	<p>授業概要説明：教育社会学とは何かについての説明</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第2回	<p>教育実践記録①の読み取り・社会学的分析(1)：「承認」の行為・関係と「存在論的安心」「自己肯定感」の観点から(ア)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第3回	<p>教育実践記録①の読み取り・社会学的分析(2)：「承認」の行為・関係と「存在論的安心」「自己肯定感」の観点から(イ)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第4回	<p>教育実践記録①の読み取り・社会学的分析(3)：「承認」の行為・関係と「存在論的安心」「自己肯定感」の観点から(ウ)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第5回	<p>教育実践記録②の読み取り・社会学的分析(1)：「個人化」進展の中の子ども・若者の逸脱の変容(ア)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第6回	<p>教育実践記録②の読み取り・社会学的分析(2)：「個人化」進展の中の子ども・若者の逸脱の変容(イ)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第7回	<p>教育実践記録②の読み取り・社会学的分析(3)：「個人化」進展の中の子ども・若者の逸脱の変容(ウ)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第8回	<p>中間のまとめと補足</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第9回	<p>教育実践記録③の読み取り・社会学的分析(1)：近代学校という制度の特質と、そこにおける教え-教えられる関係成立の原理的困難性(ア)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第10回	<p>教育実践記録③の読み取り・社会学的分析(2)：近代学校という制度の特質と、そこにおける教え-教えられる関係成立の原理的困難性(イ)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第11回	<p>教育実践記録③の読み取り・社会学的分析(3)：近代学校という制度の特質と、そこにおける教え-教えられる関係成立の原理的困難性(ウ)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第12回	<p>教育実践記録④の読み取り・社会学的分析(1)：「個人化」進展と、家族の子育ての変容と困難(ア)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第13回	<p>教育実践記録④の読み取り・社会学的分析(2)：「個人化」進展と、家族の子育ての変容と困難(イ)</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>	
	第14回	<p>教育実践記録④の読み取り・社会学的分析(3)：「個人化」進展と、家族の子育ての変容と困難(ウ)</p>	

	<p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p> <p>第15回 全体のまとめ</p> <p>【事前学習】 Teamsに事前に掲載されたレジュメ・資料に目を通しておく(2時間)</p> <p>【事後学習】 授業で使用したレジュメ・資料を見ながら授業の内容を振り返る(2時間)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【 】</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 【 】</p> <p>3) ICTの活用 【 】</p> <p>4) 初年次教育 【 】</p>
テキスト	特にありません。
参考書	久富善之・長谷川裕編 2019年 『教育社会学 第二版』 学文社
評価方法	各回の授業のコメント・レポート(30%)、教育実践記録読解の小レポート(20%)、学期末レポート(50%)
評価基準	<p>初回講義時に説明します。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【 】 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【 】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	特にありません。
オフィスアワー	質問などありましたら、電子メールで連絡ください。アドレス：ytk16761@hs.u-ryukyu.ac.jp
課題に対するフィードバック方法	各回の授業のコメント・レポート、教育実践記録読解の小レポートに記載された内容を、名前は出さずに掲載した資料を作成し、授業の中で紹介しコメントします。

講義科目名称： 発達心理学

授業コード：

英文科目名称： Developmental Psychology

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	1年	2単位(2-0)	必修科目
担当教員			
大城 りえ			
授業形態：講義 ※遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEU3121101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】子どもの心身の発達及び学びの過程の理解</p> <p>【到達目標】</p> <p>知識・理解の観点：子どもの心身の発達の過程と特徴を理解することができる。また、子どもの学びの過程と特性について理解することができる。</p> <p>技能の観点：子どもの心身の発達及び学びの過程を踏まえ、保育者としての子どもへの関わり方を説明できる。</p> <p>態度の観点：子どもの発達や学びに関心を持ち、グループ討議に積極的に取り組む。</p>
授業の概要	<p>①子どもの発達に関する心理学的知識を踏まえ、乳幼児期の子どもの心身(対人関係、自己、情動、身体的機能、運動、認知、言語)の発達の過程及び特徴を学び、保育者としての関わり方を理解する。</p> <p>②学習に関する基礎的知識を踏まえ、子どもの学びの過程と特性を学び、保育者としての関わり方を理解する。</p> <p>③支援を要する子ども達の発達について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、発達心理学を学ぶ意義について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 発達心理学を学ぶ意義を理解する。 【事前学習】テキストpp. 2、10-21を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】発達心理学を理解することの意義についてまとめる。(2時間)</p> <p>第2回 発達段階・発達課題について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 発達段階と発達課題について理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】発達段階と発達課題の意味をまとめる。(2時間)</p> <p>第3回 発達理論・発達を規定する要因について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 心身の発達に影響する外的・内的要因(遺伝と環境)の相互作用と発達に関する諸理論を学ぶ。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】発達理論と発達を規定する要因についてまとめる。(2時間)</p> <p>第4回 胎児期の発達について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 胎児の発達を理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】胎児の発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第5回 新生児期の発達について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 新生児の発達を理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】新生児の特徴についてまとめる。(2時間)</p> <p>第6回 乳幼児期の対人関係の発達について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 乳幼児期の対人関係の発達について理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 32-34を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】対人関係の発達(愛着)についてまとめる。(2時間)</p> <p>第7回 乳幼児期の自己と情動の発達について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 乳幼児期の自己と情動の発達を理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 34-39を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】自己の発達と情動の発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第8回 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 乳幼児期の身体的機能と運動機能の発達を理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 39-40を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】身体的機能と運動機能の発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第9回 乳幼児期の認知の発達について①第一次認知 ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 乳幼児期の第一次認知について理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 40-43を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】第一次認知についてまとめる。(2時間)</p> <p>第10回 乳幼児期の認知の発達について②第二次認知 ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 乳幼児期の第二次認知について理解し、保育者としての関わり方を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 43-46を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】第二次認知についてまとめる。(2時間)</p> <p>第11回 乳幼児期のことばの発達について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。</p>

	<p>乳幼児期のことば性の発達を理解し、保育者としての関わりを学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 46-51を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】ことばの発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第12回 乳幼児期の学びに関わる理論について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 学びに関する理論を学ぶ。 【事前学習】テキストpp. 54-59を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】学びの理論についてまとめる。(2時間)</p> <p>第13回 乳幼児期の学びの過程と特性について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 乳幼児期の学びの過程と特性について理解する。 【事前学習】テキストpp. 60-69を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】学びの過程と特性についてまとめる。(2時間)</p> <p>第14回 乳幼児期の学びを支える保育について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 乳幼児期の学びを支える保育について理解する。 【事前学習】テキストpp. 69-73を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】学びを支える保育者の関わり方についてまとめる。(2時間)</p> <p>第15回 支援を要する子どもたちの発達理解について ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで講義資料の配付・演習を行う。 支援を要する子どもたちの発達を理解する。 【事前学習】配布資料を読み、わからない用語を調べる。(2時間) 【事後学習】支援を要する子どもの発達についてまとめる。(2時間)</p> <p>第16回 定期試験 ※遠隔授業の場合：MicrosoftTeamsで課題配信</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会(編) 2020年 『最新保育士養成講座 第6巻 子どもの発達理解と援助』 全国社会福祉協議会 文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館 その他担当者が準備します。
参考書	厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館 厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館
評価方法	定期試験50%、授業内レポート35%、受講態度15% ※遠隔授業の場合：受講態度をレポートに変更して実施する。 定期試験50%、授業内レポート35%、レポート15%
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 ※遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックについても変更あり。詳細は講義内で説明。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) -：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。 【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。
履修上の注意	事前学習と事後学習をしっかり行い、保育の基礎である子どもの発達の理解に努めるため、授業中でも積極的に質問を行うこと。 ※遠隔授業の場合、MicrosoftTeams等で提示する資料や課題を必ず確認すること。
オフィスアワー	毎週木曜日 3限目 西研3-7大城研究室 ※遠隔授業実施期間においては、メールおよびオンライン面談を行う。 面談の設定については、メールで連絡 (rie@ocjc.ac.jp)
課題に対するフィードバック方法	授業内レポートは、授業内で返却します。定期試験は、各自のメールボックスに返却します。

講義科目名称： 特別支援教育論

授業コード：

英文科目名称： Theory of Special Needs Education

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (2-0)	選択科目
担当教員			
緒方 茂樹			
授業形態：講義 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3232171		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ：特別支援教育の内容を理解し、障害児保育・特別支援教育の基礎を習得する。</p> <p>知識・理解：特別支援教育の理念及び発達障害の特性とその対応についての知識を身につける。</p> <p>技能：インクルーシブ教育の基本的な概念を正確に説明できる。</p> <p>態度：障害を含む特別なニーズについて理解しようとする基本的な態度を身につけ、議論に参加できる。</p>
授業の概要	<p>1) 特別支援教育の基本的な理念を理解し、インクルーシブ教育に当たっての留意点について学ぶ。</p> <p>2) 特別なニーズを有する子どもへの支援に関わる、教育課程、個別の教育支援計画・指導計画の内容を学ぶ。</p> <p>3) 多様な学びの場について理解し、就学支援の仕組みと実際について学ぶ。</p> <p>4) 発達障害をはじめとする様々なニーズを有する子どもへの客観的な見方や評価の方法を身につける。</p> <p>5) 貧困、外国に繋がる子ども等、障害に由来しない特別なニーズを有する子どもへの客観的な見方や評価の方法を身につける。</p> <p>6) 関係諸機関等の種類と役割を理解し、保護者も含めて障害児保育に必要な連携の在り方について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 障害に関わる法制度と概念の変遷</p> <p>ここでは障害児(者)に関わる法制度の歴史の変遷をまず理解します。世界的な障害に対する考え方の推移と、我が国における障害者に関する法制度の整備に関わる歴史を学びます。さらに、それに伴う障害に関する考え方の変化の具体的な例として、ICIDHからICFへと移行する概念の変化について理解します。特に現在の主流となっているICFの考え方については具体的な例をあげながら詳細に学びます。</p> <p>遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>[事前学習]：ICFの基本的な考え方について調べておく (120分) [事後学習]：ICIDHとICFの観点の相違について整理 (120分)</p> <p>第2回 特殊教育から特別支援教育へ</p> <p>ここでは特殊教育から特別支援教育への移行について、歴史的な変遷と新たな課題も含めて学びます。まず、従来特殊教育の対象とされなかった発達障害に対する教育の必要性に基づく、特別支援教育の枠組みと内容について学びます。次にノーマライゼーションに基づくインクルーシブ教育の理念について理解し、インクルーシブ教育を具体化するために不可欠な「基礎的環境整備」と「合理的配慮」について、具体例を交えながら詳細に学びます。</p> <p>遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>[事前学習]：合理的配慮の具体的な例について調べておく (120分) [事後学習]：特殊教育と特別支援教育との相違について、特に対象児の変化から整理 (120分)</p> <p>第3回 特別なニーズを有する子どもへの対応と教育課程</p> <p>ここでは子どもが有する特別なニーズについて考えていきます。「気になる子」、「支援が必要な子」などと呼ばれる、いわゆる「特別なニーズ」を有する子どもとはどのようなものか、まずその概要について理解します。さらに、特別なニーズに対する具体的な支援を行うために不可欠な子どもの実態把握の重要性を知り、それに基づいた個別の支援(個に応じた教育・保育)について詳しく学びます。</p> <p>遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>[事前学習]：特別なニーズを有する子どもに関する自分の具体的なイメージについてまとめておく (120分) [事後学習]：実際の保育場面で考えられる個に応じた対応について取り組み例を考える (120分)</p> <p>第4回 多様な学びの場と就学支援</p> <p>ここでは多様な学びの場と就学支援の実際について学びます。まず普通学校に設置されている、通常の学級、通級指導教室、特別支援学級から、特別支援学校、あるいは訪問(院内)学級に至る、多様な学びの場について学びます。次に保育所(園)あるいは幼稚園から小学校への就学支援について学びます。それぞれの学びの場についてその特性と目的、対象児について理解し、就学支援の仕組みについても学びます。沖縄県に特異的な幼稚園と就学支援に関わる課題については第13回の講義で扱います。</p> <p>遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>[事前学習]：多様な学びの場の種類について調べておく (120分) [事後学習]：就学支援の具体的な流れと留意点について整理し、まとめる (120分)</p> <p>第5回 特別なニーズを有する子どもへの支援計画</p> <p>ここでは特別なニーズを有する子どもに対する具体的な教育的支援の方策について学びます。個に応じた対応に不可欠な実態把握に基づく支援計画の重要性についてまず理解します。次に特別支援教育の対象児に対しての作成が義務づけられている、個別の教育支援計画と個別の指導計画の目的と内容について理解します。さらに学校現場で作成された、具体的な事例を参考にしな</p>

から、その作成方法と作成の留意点についても学びます。

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

[事前学習]：個別の教育支援計画の具体例について調べておく（120分）

[事後学習]：個別の教育支援計画作成のために必要な関係諸機関（教育、医療、福祉・保健）についてまとめる（120分）

第6回

知的障害・肢体不自由・病弱等の子どもの特性

ここでは特別支援教育における知的障害と肢体不自由、病弱への対応について概論的に学びます。

知的障害については、その原因の多様性と程度の幅について理解します。特に知的障害の程度とそれぞれに対応するコミュニケーションの問題について詳しく理解します。体不自由については、その原因のみならず障害によって生じるハンディキャップとそれを補うための環境整備についても学びます。病弱については、難病も含めた障害種別と対応について理解します。

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

[事前学習]：知的障害に対してもつ自分のイメージについてまとめておく（120分）

[事後学習]：保育場面における知的障害への具体的な対応について障害の程度も考慮しながら考える（120分）

第7回

視覚・聴覚・言語障害の子ども

ここでは視覚障害、聴覚障害と言語障害への対応について概論的に学びます。

視覚障害については、視覚、視野、色覚の障害についてそれぞれ理解し、その原因が先天性であるか後天性であるかによる相違と盲と弱視の相違について知ります。特に聴覚障害については、感音性難聴と伝音性難聴のそれぞれの特性について学び、各々に対する対応の相違について理解します。言語障害については、構音障害や流暢性の障害等様々な場合について学びます。

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

[事前学習]：聴覚障害に対してもつ自分のイメージについてまとめておく（120分）

[事後学習]：保育場面における聴覚障害への具体的な対応について考える（120分）

第8回

発達障害のある子どもの特性（AD/HD）

ここでは発達障害の中でも特に注意欠如・多動性障害（AD/HD）について、その評価と障害特性、対応の在り方について詳細に学びます。

AD/HDの障害特性である、衝動性、多動性、不注意について、国際診断基準を参考にしながら個別に具体例を交えながら学んでいきます。また実際のAD/HDの事例を紹介しながら、医学的な側面からの薬物療法についても知ります。さらにAD/HDに特有な二次障害のリスクとその回避について、早期発見の観点も含めながら学びます。

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

[事前学習]：AD/HDに対してもつ自分のイメージについてまとめておく（120分）

[事後学習]：保育場面における特に衝動性の強いAD/HDへの具体的な対応について考える（120分）

第9回

発達障害のある子どもの特性（LD）

ここでは発達障害の中でも特に限局性学習障害（LD）について、その評価と障害特性、対応の在り方について詳細に学びます。

LDの障害特性である、読み、書字、計算について、国際診断基準を参考にしながら個別に具体例を交えながら学んでいきます。LDは学校教育の場面で問題になることから、多様な学びの場との関わりも含めながら具体的な教育的対応（指導）のあり方について理解します。さらに実際のLDの事例を挙げながら、学齢期を終了した後の予後についても考えを深めていきます。

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

[事前学習]：LDに対してもつ自分のイメージについてまとめておく（120分）

[事後学習]：手先の不器用さを併せ持つ、特に書字に問題のあるLDへの具体的な対応について考える（120分）

第10回

発達障害のある子どもの特性（自閉症スペクトラム障害）

ここでは発達障害の中でも特に自閉症スペクトラムについて、その評価と障害特性、対応の在り方について詳細に学びます。

自閉症スペクトラムの障害特性である、対人関係、コミュニケーション、こだわり・常同行動について、国際診断基準を参考にしながら個別に具体例を交えながら学んでいきます。自閉症スペクトラムは特有の障害特性のみならず、知的障害を伴う場合も多いことから、自閉性と知的障害の程度を二軸とした多様性についても理解します。また自閉症スペクトラムの予後は難しいことが多いことから、学齢期を終了した後の予後についても考えを深めていきます。

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

[事前学習]：自閉症スペクトラムに対してもつ自分のイメージについてまとめておく（120分）

[事後学習]：知的障害のない、特にコミュニケーションに課題のある自閉症スペクトラムへの具体的な対応について考える（120分）

第11回

発達障害のある子どもの理解（アクティブラーニング形式）

ここでは、特に自閉症スペクトラムに特異的な障害特性についてアクティブラーニング形式で実際に学んでいきます。

自閉症スペクトラムは特有の知覚認知の特性をもつことが知られています。様々な図表を自分の目で見ながら、自閉症スペクトラムの子どもが、事物をどのように知覚認知しているのかシミュレーションをし、実際に体験してみます。

遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信

[事前学習]：TEACCHにおける「構造化」について調べておく（120分）

	<p>[事後学習]：知的障害があり、特にこだわりの強い自閉症スペクトラムへの具体的な対応について考える (120分)</p> <p>第12回 障害に由来しない特別なニーズを有する子どもへの対応 ここでは貧困や外国に繋がる子ども等、障害に由来しない特別なニーズを有する子どもについて、その評価と障害特性、対応の在り方についてその概略を学びます。貧困が子どもに及ぼす影響については、家庭環境を考慮した家族支援の観点も踏まえながらニーズに対する対応の方策と留意点について理解します。外国に繋がる子どもについては、LDの理解に関わる内容も踏まえながら、内言語と外言語のギャップや抽象概念の理解に関する問題なども含めて考えていきます。</p> <p>遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>[事前学習]：貧困に対してもつ自分のイメージについてまとめておく (120分) [事後学習]：外国に繋がる子どもについて、特にコミュニケーションの観点から具体的な対応について考える (120分)</p> <p>第13回 乳幼児健康診査と早期発見・早期対応の重要性 ここでは特別なニーズを有する子どもの早期発見と早期対応について、乳幼児健康診査の役割を中心に、その具体的な方法と重要性・課題について学びます。乳幼児健康診査は子どもの最初の障害発見に深く関わっていることから、1歳半健診、3歳児健診における保健師の役割と障害への気づきについて理解します。さらに早期発見・早期対応に関わるスクリーニングとプレスクリーニングの重要性についても理解を深めます。特に沖縄県に特異的な幼稚園と就学に関する課題はここで扱います。</p> <p>遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>[事前学習]：乳幼児健康診査の方法と役割について調べておく (120分) [事後学習]：早期発見のための具体的な方策について児童票の活用を含めて考える (120分)</p> <p>第14回 外部資源との連携と特別支援教育コーディネーター ここでは、外部資源との連携と特別支援教育コーディネーターについて学びます。外部資源である関係諸機関等の種類と役割について、教育、福祉・保健、医療の分野毎に整理しながら理解します。また学校における特別支援教育コーディネーターの役割と特別支援学校のセンター校的役割についても学びます。さらにそれらを踏まえて、保育所(園)におけるコーディネーター的役割の重要性を理解し、教育相談とケースミーティングの実際について学びます。同時に、保育所(園)や学校現場における職員間連携の重要性と「守秘義務」について学びます。</p> <p>遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>[事前学習]：特別支援学校のセンター校的役割について調べておく (120分) [事後学習]：保育所(園)における「守秘義務」の重要性についてまとめる (120分)</p> <p>第15回 事例研究を通じたまとめ(アクティブラーニング形式) ここでは、15回の講義で学んだ内容を踏まえて、その総まとめとして仮想事例を用いた事例研究を行います。設定した仮想事例の具体的な成長を追いながら、それぞれの発達段階と年齢に応じて生じる特別なニーズについて、講義内容を思い出しながら整理をしていきます。さらにそれぞれのニーズに関わる課題や対応のあり方についてアクティブラーニング形式でお互いにアイデアを出し合いながら、考えを深めていきます。</p> <p>遠隔授業の場合：TEAMSを利用、講義資料等は事前に配布あるいはTEAMSで配信</p> <p>[事前学習]：15回の講義の中で特に印象に残った内容についてまとめておく (120分) [事後学習]：保育所(園)におけるコーディネーター的役割の重要性について考える (120分)</p> <p>第16回 定期試験 15回の講義内容を踏まえて、記述式の期末試験を行います。 遠隔授業の場合：TEAMSを利用、TEAMSを用いて講義時間内に試験を行う予定です。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>特になし、講義ノートと資料を配付予定 遠隔授業の場合には事前配布あるいはiLAS経由で配信予定</p>
参考書	<p>特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領平成29年4月告示 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚部・小学部・中学部) 前田泰弘編 2019年 「実践に生かす障害児保育・特別支援教育」 萌文書林 (ISBN 948-4-89347-326-4 C3037)</p>
評価方法	<p>定期試験(60%)、授業中の態度(20%)、授業への参加度(20%) 遠隔授業で行う場合でも、授業時間内にTEAMS経由で試験を行う予定</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。(遠隔の場合には講義内で説明)</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠(K) - :出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p><input type="checkbox"/> 1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。</p>

	<p>【○】 3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【○】 4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】 5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>授業には目的意識をもって、主体的に参加すること。</p> <p>講義を通じて自ら思考する態度を身につけること。</p> <p>グループディスカッションの場面があった場合には、自らの意見を述べるなど積極的に参加すること。</p> <p>講義中は他者への迷惑行為（スマートフォンの使用、メール、私語、離席）を固く禁ずる。</p> <p>遠隔授業の場合、TEAMSで配信する資料や課題を必ず確認すること。</p> <p>TEAMSにて授業を実施する回には、授業開始時間までにコンピュータ、スマートフォンで参加できるよう準備すること。</p> <p>TEAMS経由でスライドデッキ、資料が配信された場合でも、閲覧しながら授業参加ができるように必ず手元に用意しておくこと。</p>
オフィスアワー	<p>授業終了後、あるいは次回授業前に質問を受け付けます。</p> <p>遠隔授業時には、メールあるいはオンライン面談を行います。</p> <p>面談の設定については、メールで連絡（o-shigeki@ocjc.ac.jp）</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題などの詳細は授業内で説明予定です。</p> <p>遠隔授業の場合にはmailあるいはTEAMSを経由してフィードバックを予定しています。</p>

講義科目名称： 教育課程総論（保育の計画と評価）

授業コード：

英文科目名称： Introduction to Curriculums (Childcare Planning and Evaluation)

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年次	2単位 (2-0)	選択科目 (幼免・保育士：必修)
担当教員			
喜舎場 勤子・松田 恵子			
授業形態：講義	ナンバリング：EEM3232101		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>(1) 幼児教育における教育課程や保育の全体的な計画の役割・機能及びカリキュラム評価の基礎的な考え方を理解することができる。</p> <p>(2) 教育課程等の編成方法の理論的知識を活用し、計画を立案することができる。</p> <p>(3) 授業や課題への取り組みを通し、主体的学習者としてのタイム・マネジメント力を身につけることができる。</p>
授業の概要	<p>幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針を基準として編成されている教育課程及び保育の全体的な計画について、その意義や編成の方法を理解する。さらに、幼児教育機関・施設の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントを行うことの意義について理解する。幼稚園において教員経験のある者が、その経験を活かし、実際の資料（教育課程や指導計画）を活用し、教育課程や全体的な保育計画について、資料や実例などを通して具体的に解説する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、カリキュラムの基礎理論 前半は評価方法・課題の詳細など履修上の重要事項について説明する。後半はカリキュラムの定義・意義・社会的役割について解説する。 【事前学習】シラバスに目を通す。テキスト第1章を読み語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第2回 全体的な計画・教育課程の意義 3つの幼児教育施設におけるカリキュラムの性格・位置付け及び編成の目的等について講義する。 【事前学習】テキスト第2章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第3回 全体的な計画・教育課程の変遷 幼稚園教育要領・保育所保育指針の改訂(定)の変遷やその社会的背景について講義する。教育課程等が社会において果たしている役割や機能について講義する。 【事前学習】テキスト第3章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第4回 全体的な計画・教育課程の編成 関連法令を踏まえたカリキュラム編成手順について講義する。 【事前学習】テキスト第4章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第5回 指導計画の基礎 指導計画の必要性や種類・内容について講義する。 【事前学習】テキスト第5章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第6回 年齢別発達のポイント 「発達過程」や年齢別発達のポイントについて講義する。 【事前学習】テキスト第6章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第7回 全体的な計画と保育 保育所等における全体的計画について講義する。 【事前学習】テキスト第7章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第8回 教育課程と保育 幼稚園等および小学校の教育課程について講義する。 【事前学習】テキスト第8章・第13章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第9回 指導計画の意義と種類 指導案作成の意義や種類について講義する。 【事前学習】テキスト第9章を読み、語彙等を確認する。課題(教材研究)を完成させ授業時に提出する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第10回 指導計画の作成 指導案作成の手順について講義する。講義を踏まえて指導案を作成する(グループ・ワーク)。 【事前学習】テキスト第9章を読み、語彙等を確認する。(2時間)</p>

	<p>【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第11回 指導案記入の留意点 課題(指導案)を持参し、ピアレビューをする。チェックシートを活用することにより、授業前半の学習を整理し学習した知識の運用力を鍛える。 【事前学習】テキスト第10章を読み、語彙等を確認する。課題を仕上げて出席する。授業後提出する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第12回 指導計画の実際 実際の学生が作成した実習指導計画案を紹介する。学んだ知識を活用し、批判的に指導案を読む力を鍛える。 【事前学習】テキスト第10章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第13回 保育記録・評価とカリキュラム・マネジメント 保育記録の活用や保育評価の視点について講義する。質の向上を目的とした保育過程(計画・実践・記録・省察・評価・改善)の循環やカリキュラム・マネジメントについて講義する。 【事前学習】テキスト第11章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第14回 保育所及び幼稚園の自己評価 保育者や幼児教育施設の自己評価について、その意義や種類について講義する。 【事前学習】テキスト第12章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第15回 幼稚園幼児指導要録、保育所児童保育要録、認定こども園園児指導要録 幼児教育施設における要録の役割や義務付けられた背景などを生活と発達の連続性の観点から講義する。 【事前学習】テキスト第14章を読み、語彙等を確認する。(2時間) 【事後学習】テキスト・配布資料等を精読する。フィードバック・シートを記入し提出する。(2時間)</p> <p>第16回 定期試験</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 事前学習内容を、グループでアクティブ・ラーニングをする。</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	佐藤康富編著 2020年『保育・教育カリキュラム論』大学図書出版 ※必要な資料は適宜配布する。
参考書	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2017年 『保育所保育指針』 フレーベル館</p> <p>厚生労働省 2018年 『保育所保育指針解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p>
評価方法	定期試験 50%、課題25% (指導案 10%・教材研究 10%・ピアレビュー5%)、授業後課題15%、授業貢献度10% ※課題の提出状況が著しく悪い場合は単位認定をしない場合もある。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【○】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】5. 学則に定める修業年限を満了し、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・講義形式の授業だが対話を重視し、可能な限り発言の機会を設ける。主体的・積極的な参加を求める。 ・評価の大半を課題等の提出物が占めるため、遅刻・欠席をしないようにする。 ・提出物は期限厳守とし期限を過ぎたものは受け取らない。 ・遠隔授業の場合はzoom/GoogleClassroomにて行う。事前に大学メールにて連絡する。
オフィスアワー	喜舎場 勤子：授業終了後 ※大学メールでも連絡が取れます。 松 田 恵子：授業終了後 ※大学メールでも連絡が取れます。
課題に対するフィードバック方法	提出された課題は、評価後に返却する。ただし、授業後課題については毎回返却せず全講義終了時に集計して点数化する。詳細については、初回授業時に説明する。

講義科目名称： 教育の方法・技術

授業コード：

英文科目名称： Educational Method and Technology

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(0-2)	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
佐久本 邦華			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3232151		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 ポータルフォリオやドキュメンテーション等のICTを活用した保育記録は、保護者と保育者の情報共有の有効なツールである同時に、保育者の幼児理解を深める手助けとなる。保育・教育現場におけるICT活用の実際を知り、ツールを使うことを通してICT活用の可能性について学ぶ。</p> <p>【到達目標】 受講者は幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に基づき、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な生きる力を育む。情報機器を有効に活用しながら教材作成の技術・技能を習得する。 「知識・理解」・・・保育・教育現場におけるICTの活用について知る。また、子どもたちの資質・能力を育むための活用法について理解する。 「技能」・・・保育者として必要なICT機器活用技能を習得する。幼児の発達段階に合わせた、子どもたちの学びを深めるICTを用いた活動を構想し、実践することができる。 「態度」・・・積極的に製作活動、課題、発表に取り組む。</p>
授業の概要	<p>受講者は到達目標とテーマを達成するにあたり、既存の各種教育メディア（白板・電子黒板、タブレット、印刷教材、視聴覚教材、教材教具、Web教材等）の教育効果を理解しつつ、進化する情報機器・ICT技術に対する苦手意識を克服し、教育目標の達成、より効果的な技能・技術を習得する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、幼稚園教育・保育所保育における「教育方法と技術」とは何か ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>(オリエンテーション) ・受講者は幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、保育所保育指針に基づき、これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な生きる力をはぐくませる。 ・評価方法はルーブリックに示す、1.知識理解 2.思考判断 3.関心意欲 4.態度の面から総合的に行う。 ・各人の自己紹介、連絡方法、質疑応答、その他。</p> <p>【事前学習】 Teams掲示のシラバス等を確認し、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートの提出。(2時間)</p> <p>第2回 教育技術について(情報機器及び教材の活用) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>・教育方法や情報機器を有効に活用しながら教材作成の技術・技能を習得する意識を高める。 ・自らの課題(テーマ)を達成するにあたり初等教育現場の各種教育メディア(白板・電子黒板、印刷教材、絵本・紙芝居、視聴覚教材、教材教具、インターネット教材等)の教育効果を理解を高める。 ・近年の進化する情報機器・ICT技術に対する苦手意識を克服できるよう幼児教育のレベルに合わせた教育目標により効果的な技能・技術を習得する意識を高める。 ・ホームページ上に準備した事例を紹介する。</p> <p>【事前学習】 Teamsで提示された第1回目授業用の資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートの提出。(2時間)</p> <p>第3回 大学内のインターネット環境、PC環境、情報教育メディアの整備状況、利用可能なソフト、既存の電子教材データベース、利用技術について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <p>・インターネット環境(UserID, Password, 大学のホームページ, web検索、情報倫理等) ・PC環境(Windowsのバージョン、装備されたハードウェア環境、ネットワーク環境等) ・情報教育メディアの整備状況。 ・利用可能なソフトウェア、電子教材データベース。 ・講義用に準備した利用技術マニュアル(Word, PowerPoint, お絵かきツールPaint)紹介。 ・ワープロソフトWordを用いて保護者への案内文を作成する。Wordソフトの基礎基本を学ぶ。 ・お絵かきツールPaintを用いて笑った顔、泣いた顔、怒った顔、友達の似顔絵を描く。Paintソフトの基礎基本を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 Teamsで提示された第3回目授業用の資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間分) 【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)</p> <p>第4回 ICTを活用した教材を考える① 指導案の作成 (Word, PowerPoint) ※遠隔授業の場合は、</p>

Microsoft Teamsを使用する。

- ・指導事例をもとにWordソフトの発展的な活用を考える。
- ・指導事例をもとにPowerPointソフトの発展的な活用を考える。
- ・指導事例を練り直し指導案の文書表現の充実を深める。
- ・クリティカル・シンキングの立場から指導案にいか PDCA (Plan/Do/Check/Act), 5W1H (When, Where, Who, What, Why, How)、提案場面話題の一貫性・起承転結を持たせるかなどの面から意識の高揚を図る。

【事前学習】 Teamsで提示された第4回目授業用の資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)

【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)

第5回 ICTを活用した教材を考える② 既存の作品参照 (Web検索を含む) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。

- ・インターネット上のWeb検索で既存の作品を紹介し、新たなアイデアを追加する。
- ・クリティカル・シンキングによる評価は、提出課題の作品・指導案・プレゼンテーション・模擬保育からいかに提案場面の一貫性・起承転結が明確であるかを再確認しながら実習を行う。

【事前学習】 Teamsで提示された第5回授業用の資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)

【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)

第6回 ICTを活用した教材を考える③ ミニ読み聞かせ (PowerPoint) ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。

- ・PowerPointのアニメーションツールを利用し、動く絵本をイメージしたミニ読み聞かせを行う。
- ・動画や音楽も組み合わせてみよう。
- ・どのタイミングで行えば効果的なツールになるか考えてみよう。
- ・発表時間は10分程度、PowerPointで約10画面を意識させ、自習を進める。

【事前学習】 Teamsで提示された第6回授業用の資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)

【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)

第7回 どのような教育テーマで指導案をどう作成するかー目標と評価の工夫 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。

- ・プレゼンテーションのテーマに的確なテーマ(タイトル)を再検討する。
- ・子どもたちの興味・関心を高めて目がかがやくような教育テーマにする。
- ・学習内容(場面)を10画面程度で「起承転結」を明確にしているか確認する。

【事前学習】 Teamsで提示された第7回授業用の資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)

【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)

第8回 幼児教育・保育に活かすためにどのような教育技術を選択するか ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。

- ・最終発表の準備・教材の作成・見直し。先生からのアドバイスを得よう。
- ・自分自身の知恵と教育の技術力を発揮するにはどのような選択を行えばいいか考える。
- ・効果的な方法は何かを選択しよう。

【事前学習】 Teamsで提示された第8回授業用の資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)

【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)

第9回 幼児教育・保育に活かすためにどのように情報機器・ICTを活用するか ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。

- ・最終発表の準備・教材の作成・見直し。先生からのアドバイスを得よう。
- ・自分自身の今後の教育活動が発展的に進化するための情報機器・ICT活用も考え夢を描きながら発表内容を準備しよう。

【事前学習】 Teamsで提示された第9回授業用の資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)

【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)

第10回 情報機器・ICTを活用した教材の研究 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。

- ・最終発表の準備・教材の見直し。先生からのアドバイス。
- ・自学自習の継続、質疑応答

【事前学習】 Teamsで提示された第10回授業用の資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間)

【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)

第11回 情報機器・ICTを活用した教材の作成 ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・最終発表の準備・教材の作成。先生からのアドバイス。 ・自学自習の継続、質疑応答 <p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)</p>
第12回	<p>情報機器・ICTを活用した教材の完成・評価①導入について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終発表の準備・教材の完成。先生からの評価。 ・最終指導案をもとにプレゼンテーション（模擬保育）を行う ・クラスメートの報告に対して、客観的な指標に基づいた評価を提出。 <p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)</p>
第13回	<p>情報機器・ICTを活用した教材の完成・評価②展開について ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終発表の準備・教材の完成。先生からの評価。 ・最終指導案をもとにプレゼンテーション（模擬保育）を行う ・クラスメートの報告に対して、客観的な指標に基づいた評価を提出。 <p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートと授業のミニ課題の提出確認を行う。(2時間)</p>
第14回	<p>評価から指導を見直してみよう ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未発表の方は指導案をもとにプレゼンテーション（模擬保育） ・クラスメートの報告に対して、客観的な指標に基づいた評価を提出。 ・評価を基に修正点や課題、良かった点についてグループディスカッションを行う。 <p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 振り返りレポートと最終課題の提出確認を行う。(2時間)</p>
第15回	<p>保育教育現場におけるICT活用について まとめ ※遠隔授業の場合は、Microsoft Teamsを使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・諸作品の完成・最終提出 ・まだの方は指導案をもとにプレゼンテーション（模擬保育） ・実際にICTの活用を通して、実際の保育・教育現場での可能性、課題などについて学ぶ。 <p>【事前学習】 Teamsで提示された資料を読み、分からない用語を調べておく。(2時間) 【事後学習】 最終レポートの提出。(2時間)</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】 提出課題のテーマに対しお互いでアクティブ・ラーニングを行う。</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目【○】 ネット上に掲載した作品の無断な利用など著作権の理解を高める。</p> <p>3) ICTの活用【○】 急速に進展するICT技術についていけるよう日頃から意識を高める。</p> <p>4) 初年次教育【 】</p> <p>5) 実践的PBL【 】</p>
テキスト	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年</p>
参考書	<p>内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年 厚生労働省『保育所保育指針』フレーベル館 2017年 厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館 2018年 保育所保育指針解説（平成30年2月 厚生労働省） その他適宜紹介</p>
評価方法	<p>課題および提出状況（60%） 振り返り小レポート・最終レポート（40%）</p> <p>※ 遠隔授業の場合も同様に行う。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — ：出席不足</p> <p>※ 遠隔授業の場合も同様に行う。</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授	<p>【 】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p>

業科目の関連	<p>【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【○】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>実習用パソコン上では提出課題ファイルが保存できませんので各自のUSBメモリーを持参してください。</p> <p>※ 遠隔授業の場合も同様に提出課題。</p>
オフィスアワー	<p>佐久本：毎週火曜日2限目 佐久本研究室（北研2-1） ※遠隔授業期間においては、メール、Microsoft365等を利用し相談を行う（アドレス：sakumoto.k@ocjic.ac.jp）</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>GoogleClassroom, Teams, 等を用いてフィードバックを行う。</p>

講義科目名称： 幼児理解と教育相談

授業コード：

英文科目名称： Infant Understanding and Educational Counseling

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年次	2単位 (0-2)	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
大城 りえ			
授業形態：演習 遠隔授業の可能性あり	ナンバリング：EEM3232191		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 幼児理解と教育相談の理論及び方法</p> <p>【到達目標】</p> <p>知識・理解の観点：幼児理解についての知識を身につけ、子どもを理解する方法を理解することができる。また、教育相談の意義を理解し、カウンセリングに関する基礎的知識を理解する。</p> <p>技能の観点：幼児理解や教育相談の事例検討やグループ討議を通して、保育者として具体的な関わりや支援方法を考えることができる。</p> <p>態度の観点：子どもや保護者に寄り添う態度を養い、具体的な関わり方や支援方法を考えられるようになるため、事例検討やグループ討議に積極的に取り組む。</p>
授業の概要	<p>①幼児理解のための発達理論と子どもを理解する方法（観察と記録）について学ぶ。</p> <p>②教育相談の意義、カウンセリングに関する基礎的知識（受容・傾聴・共感的理解）を理解し、子どもや保護者への態度を身につける。</p> <p>③幼児理解と教育相談の理論を踏まえ、個と集団のかかわり、いじめ、不登園、虐待等について、事例検討やグループ討議を通して具体的な関わりや支援方法について考察する。</p> <p>④職員間の連携・協働や地域の関係機関との連携について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、幼児理解と教育相談を学ぶ意義について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用 幼児理解と教育相談を学ぶ意義を理解する。 【事前学習】 教育相談について調べる。(2時間) 【事後学習】 幼児理解と教育相談を学ぶ意義について、まとめる。(2時間)</p> <p>第2回 子ども理解と発達理論について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用 子どもを理解するための発達理論を理解する。 【事前学習】 「発達心理学」で学んだ感情・認知・自己の発達を振り返り、ノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】 発達理論をまとめる。(2時間)</p> <p>第3回 観察・記録の方法と子ども理解の視点 ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用 子ども理解のための観察の重要性と記録の方法を理解する。 【事前学習】 配布資料（当事者記録・第三者記録）を読み、ポイントをまとめる。(2時間) 【事後学習】 子ども理解の方法（観察と記録）についてまとめる。(2時間)</p> <p>第4回 気になる子と友達の関わり方（個と集団をとらえる視点）について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用 気になる子と友達への関わり方を、個と集団をとらえる視点を通して理解する。 【事前学習】 配布資料を読み、子ども同士の関わり方を考える。(2時間) 【事後学習】 個と集団をとらえる視点についてまとめる。(2時間)</p> <p>第5回 カウンセリングに関する理論（来談者中心療法・精神分析・行動理論）について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用 来談者中心療法・精神分析・行動理論を理解する。 【事前学習】 来談者中心療法・精神分析・行動理論について調べる。(2時間) 【事後学習】 カウンセリングに関する理論についてまとめる。(2時間)</p> <p>第6回 カウンセリングの基本（受容・傾聴・共感的理解）について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用 カウンセリングの基本（受容・傾聴・共感的理解）を理解する。 【事前学習】 第5回のカウンセリング理論について振り返る。(2時間) 【事後学習】 カウンセリングの基本についてまとめる。(2時間)</p> <p>第7回 カウンセリングの技法（非言語的コミュニケーション技法・傾聴実習）について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用 カウンセリングの技法（非言語的コミュニケーション技法・傾聴実習）を理解する（ロールプレイ）。 【事前学習】 第6回の授業内容を振り返る。(2時間) 【事後学習】 カウンセリングの技法について、ロールプレイで感じたことをまとめる。(2時間)</p> <p>第8回 教育相談の進め方（目標の立て方・記録・職員間連携など）について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用 教育相談の進め方（目標の立て方・記録・職員間連携など）について学ぶ。 【事前学習】 教育相談を行う際の目標の立て方や職員間連携について考える。(2時間) 【事後学習】 教育相談の進め方のポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第9回 事例検討：発達の遅れ・発達障がいのある子への支援について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用 事例を通して、発達の遅れ・発達障がいのある子への支援方法を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】 事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。(2時間) 【事後学習】 発達の遅れがある子への支援方法について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第10回 事例検討：問題行動への対応について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用 事例を通して、子どもの問題行動への支援方法を学ぶ（グループ討議）。 【事前学習】 事例（配布資料）を読み、支援方法について考える。(2時間)</p>

	<p>【事後学習】問題行動への対応について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第11回 事例検討：登園しぶりへの対応について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用事例を通して、登園しぶりへの対応を学ぶ(グループ討議)。</p> <p>【事前学習】事例(配布資料)を読み、支援方法について考える。(2時間)</p> <p>【事後学習】支援方法について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第12回 事例検討：いじめへの対応について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用事例を通して、いじめへの対応を学ぶ(グループ討議)。</p> <p>【事前学習】事例(配布資料)を読み、支援方法について考える。(2時間)</p> <p>【事後学習】いじめへの対応について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第13回 事例検討：虐待への対応について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用事例を通して、虐待への対応を学ぶ(グループ討議)。</p> <p>【事前学習】事例(配布資料)を読み、支援方法について考える。(2時間)</p> <p>【事後学習】虐待への対応について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第14回 事例検討：気になる保護者への対応について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用事例を通して、気になる保護者への対応を学ぶ(グループ討議)。</p> <p>【事前学習】事例(配布資料)を読み、支援方法について考える。(2時間)</p> <p>【事後学習】気になる保護者への対応について、ポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第15回 家庭や専門機関との連携について ※遠隔授業の場合、ZOOMとGoogleClassroomを使用家庭や専門機関との連携・協働について理解する。</p> <p>【事前学習】家庭や専門機関との連携・協働について、これまでの事例から振り返る。(2時間)</p> <p>【事後学習】家庭や専門機関との連携・協働のポイントをまとめる。(2時間)</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>文部科学省 2017年 『幼稚園教育要領』 フレーベル館</p> <p>文部科学省 2018年 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2017年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 フレーベル館</p> <p>内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018年 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館</p> <p>その他、事例等配布資料は担当者が準備します。</p>
参考書	<p>大野精一(編) 2017年 『教師・保育者のための教育相談』 萌文書林</p> <p>青木久子・間藤侑・河邊貴子 2015年 『子ども理解とカウンセリングマインド』 萌文書林</p> <p>小林育子 2017年 『演習 保育相談支援』 萌文書林</p>
評価方法	小テスト40%、事例検討への参加度35%、授業内レポート15%、受講態度10%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>※遠隔授業の場合、評価方法を変更するため、ルーブリックにも変更あり。詳細は講義内で説明。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) - : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【○】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【○】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士(保育)の学位を授与する。</p>
履修上の注意	<p>事例検討では、事前に事例を読み、支援方法について考え授業に臨むこと。</p> <p>※遠隔授業の場合、GoogleClassroom等で提示する資料や課題を必ず確認し、提出期限を守ること。ZOOMにて授業する回は、授業開始時にはスマートフォンやPCで参加できるように準備すること。</p>
オフィスアワー	<p>毎週木曜日 4限目 西研3-7大城研究室</p> <p>※遠隔授業実施期間においては、メールおよびオンライン面談を行うので、メールで連絡してください。(rie@ocjc.ac.jp)</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>小テストおよび授業内レポートは、授業内で返却します。</p> <p>※遠隔授業の場合は、Googleclassroomで返却します。</p>

講義科目名称： 教育実習

授業コード：

英文科目名称： Pract. Teaching in Kindergarten

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	5単位	選択科目 (幼免：必修)
担当教員			
平中 尚子			
授業形態：実習	ナンバリング：EEP3242121		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 子ども理解及び教育実践力の育成</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：実習園の教育目標や地域の特性を踏まえ、幼児期の特性に応じた環境を通して行う保育について、実習を通して理解することができる。 技能の観点：子どもが環境と関わる姿を見守り、適切な援助・配慮を行うことができる。 態度の観点：教育者としての愛情と使命感をもち、責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加できる。</p>
授業の概要	将来、実践の場で柔軟に対応できるような実践的指導力の育成を目指し教育実習を行う。大学で学んだ理論を基盤として、幼稚園教諭としての職務を理解し、幼稚園での幼児理解を深め、教育実践の基礎的な能力と態度を身につける。
授業計画	<p>事前指導</p> <p>①幼稚園教育実習の概要 ②幼稚園教育の基本 ③実習記録の意義・方法の理解 ④教育内容の理解 ⑤部分実習の指導案作成と模擬保育 ⑥教育実習園でのオリエンテーションおよび沿革・教育方針・運営等についての理解（事前訪問）</p> <p>教育実習</p> <p>①観察実習 ②参加/部分実習 ③部分/責任実習</p> <p>事後指導</p> <p>①教育実習反省会 ②個別面談（教育実習の振り返りと自己の課題） ③実習レポート</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	<p>文部科学省『幼稚園教育要領』フレーベル館 2017年 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 2018年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』フレーベル館 2017年 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』フレーベル館 2018年</p> <p>その他必要な資料は担当者が準備する。</p>
参考書	沖繩キリスト教短期大学『2021年度版 実習の手引き－保育所・施設・幼稚園－』
評価方法	実習園からの評価50%，実習日誌10%，実習レポート20%，部分実習指導案・発表10%，その他提出物10%で総合的に評価する。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) - ：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【○】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。</p> <p>【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を実践する態度を追求する。</p> <p>【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。</p> <p>【○】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。</p> <p>【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。</p>
履修上の注意	心身ともに健康であること。学習態度や出席状況が良好であること。提出物は、期限内に提出していること。

	実習指導を履修している者。教育実習の意味を理解し、学ぶ目的をもって積極的に実習に参加すること。
オフィスアワー	毎週火曜日 4 限目 平中研究室（西研2-8）
課題に対する フィードバック方法	課題は、評価後に返却します。

講義科目名称： 保育・教職実践演習（幼稚園）

授業コード：

英文科目名称： Childcare Practice Seminar (Kindergarten)

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位(0-2)	選択科目（幼免・保育士：必修）
担当教員			
平中 尚子・大城 りえ・糸洲 理子			
授業形態：演習	ナンバリング：EEI3252301		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 保育者としての実践力の形成</p> <p>【到達目標】 知識・理解の観点：既習の講義、演習、実習を通して得た知識技能を統合し、幼児教育・保育を理解することができる。 技能の観点：保育者としての資質・能力を形成し、幼児教育・保育に必要な知識及び技能を基に適切な援助を行うことができる。 態度の観点：自己の課題を認識し、幼児教育・保育の専門職としての自覚を持つことができる。</p>
授業の概要	<p>これまでの講義、演習、実習を通して得た知識技能を統合し、実践力のある保育者としての資質・能力を形成することを目的とする。 保育者として必要な「使命感・責任感・教育的愛情」「社会性や対人関係能力」「幼児理解や学級経営」「保育内容の指導力」などを、演習、ロールプレイ等を通して具体的に学んでいく。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明、これまでの学習の振り返り 授業の始めに、講義概要について説明する。 保育者としての使命感、責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力について、グループで検討し各自でまとめる。 これまでの学習や教育実習を振り返り、知識及び技能等の課題を明確にする。 【事前学習】教育実習を振り返り、自己の課題を明確にしておくこと。(2時間) 【事後学習】保育者の使命感、責任感、教育的愛情、社会性や対人関係能力についてまとめる。(2時間)</p> <p>第2回 保育者の使命感・責任感・教育的愛情 保育者としての使命や職務についての基本的な理解に基づき、自発的・積極的に自己の責務を果たそうとする姿勢について理解する。 【事前学習】保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、自分で資料や文献等を探し、何を学びたいのかを明確にしておくこと。(2時間) 【事後学習】保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、学んだことを振り返りまとめる。(2時間)</p> <p>第3回 幼児理解とカウンセリングマインド（ロールプレイ） 保育実践の中のカウンセリングマインドについて理解する。 【事前学習】カウンセリングマインドについて調べる。(2時間) 【事後学習】授業で学んだカウンセリングマインドの要点についてまとめる。(2時間)</p> <p>第4回 社会性の学び 社会人としての基本（挨拶など）が身についているか、そしてなぜ必要か理解する。 【事前学習】社会人として必要なことを事前にまとめておく。(2時間) 【事後学習】講義内で学んだ社会性について、配付したプリントに記入しまとめ、提出すること。(2時間)</p> <p>第5回 幼児理解の発達の特性 幼児の発達の特性について理解する。 【事前学習】幼児の発達の特性について、見直しておく(2時間) 【事後学習】幼児理解の発達の特性について、授業で学んだ要点を整理する(2時間)</p> <p>第6回 保育者の資質・能力 自己の課題を認識し、その解決に向けて、自己研鑽に励むなどの、常に学び続ける姿勢について理解する。 【事前学習】保育者の資質・能力について、事前に資料や文献などから、何を学びたいのかを明確にしておくこと。(2時間) 【事後学習】保育者の資質・能力において学んだことについて、まとめる。(2時間)</p> <p>第7回 支援の必要な子への対応（事例検討） 支援の必要な子について理解し、一人一人を尊重した関わり方について理解する。 【事前学習】事前に配布した資料を読むこと。(2時間) 【事後学習】支援の必要な子への関わり方の要点についてまとめる。(2時間)</p> <p>第8回 教材・教具等を工夫した指導案作成 教材・教具等を工夫した指導案作成する。 【事前学習】幼稚園教育実習で使用した責任実習の指導案について見直しておく。(2時間) 【事後学習】講義内で指導案について学び、配付したプリントに記入しまとめ提出すること。(2時間)</p> <p>第9回 幼児理解に基づいた学級経営 幼児期の発達の特性をふまえて、学級経営について理解する 【事前学習】第5回配布資料を基に、幼児理解に基づいた学級経営について学びたいことを明確にする(2時間) 【事後学習】授業で学んだことを基に、幼児理解に基づいた学級経営案を作成し、提出する(2時間)</p> <p>第10回 事例研究①：事例検討</p>

	<p>自己の課題とする特定の教育テーマで事例を検討する。 【事前学習】自己の課題から教育テーマを精選し、事例研究に必要な内容を明確にしておくこと。(2時間) 【事後学習】自己の課題から教育テーマを定め、事例研究発表に必要な資料を作成すること。(2時間)</p> <p>第11回 事例研究②：資料作成 自己の課題とする特定の教育テーマで事例を検討し、資料を作成する。 【事前学習】自己の課題から教育テーマを精選し、事例研究に必要な内容を明確にしておくこと。(2時間) 【事後学習】自己の課題から教育テーマを定め、事例研究発表に必要な資料を作成すること。(2時間)</p> <p>第12回 事例研究発表及び討議 研究した事例を発表し、グループで討議、意見交換を行う。 【事前学習】事例研究発表に必要な資料を作成、準備しておくこと。(2時間) 【事後学習】発表した事例研究について、討議、意見交換で得た内容をまとめること。(2時間)</p> <p>第13回 事例研究発表及び討議 研究した事例を発表し、グループで討議、意見交換を行う。 【事前学習】事例研究発表に必要な資料を作成、準備しておくこと。(2時間) 【事後学習】発表した事例研究について、討議、意見交換で得た内容をまとめること。(2時間)</p> <p>第14回 事例研究発表及び討議 研究した事例を発表し、グループで討議、意見交換を行う。 【事前学習】事例研究発表に必要な資料を作成、準備しておくこと。(2時間) 【事後学習】発表した事例研究について、討議、意見交換で得た内容をまとめること。(2時間)</p> <p>第15回 自己課題の明確化 2年間の学習をとおして、自己の保育者としての資質・能力等について振り返る。 【事前学習】これまでの講義内容を振り返り、「保育者の資質・能力」と「保育者の使命感・責任感・教育的愛情」についてまとめておくこと。(2時間) 【事後学習】保育者の資質能力と保育者の使命感・責任感・教育的愛情について、自己を振り返り、自己課題を明らかにする。(2時間)</p> <p>第16回 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	文部科学省 『幼稚園教育要領』 フレーベル館 2017年 文部科学省 『幼稚園教育要領解説』 フレーベル館 2018年 ※授業内容に応じて資料を配付する
参考書	その他、必要な資料は適宜配布する。
評価方法	教員評価 (30%) , 到達目標 (20%) , 事例研究 (20%) , レポート (30%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) — :出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【○】1. キリスト教精神に基づき、他者と異文化への理解を深め、子どもに仕え、平和でよりよい保育環境を実現するための態度を身につける。 【○】2. 保育者としての豊かな感性を身につけ、自らを律し他者との対話を通して、主体的に保育を实践する態度を追求する。 【○】3. 幅広い教養教育と専門科目を通して思考力・判断力・表現力を身につける。 【○】4. 地域を拠点に、国内外の子どもや保育の課題を解決するために貢献できる。 【○】5. 学則に定める修業年限を満たし、卒業に要する所定の単位数を修得した者に対し、短期大学士（保育）の学位を授与する。
履修上の注意	※課題の提出期日は厳守すること。
オフィスアワー	平中：毎週＊曜日＊限目 平中研究室（西研2-8） 大城：毎週＊曜日＊限目 大城研究室（西研3-7） 糸洲：毎週＊曜日＊限目 糸洲研究室（西研3-8）
課題に対するフィードバック方法	平中：課題は、評価後に各自のメールアドレスへ返却する 大城：課題は、評価後に各自のメールアドレスへ返却する 糸洲：課題は、評価後に各自のメールアドレスへ返却する